

千代田区教育委員会 殿

千代田区立麴町小学校
校長 田村 砂弥香

令和7年度 教育課程について（届）

このことについて、千代田区立学校の管理運営に関する規則に基づき、下記の通りお届けします。

記

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

自他の大切な命を尊ぶ理念を理解し、豊かな心をもつ児童を育むことを目指す。そして、国際社会において、日本人としての教養と誇りを持ち、生涯を通じて自ら学び、広く世に貢献しながら主体的に自己実現を図ることができるように、以下の教育目標を設定する。

- ◎ よく考える子
(・学ぶことが好き、楽しい ・学んだことを活用できる ・学び方を知っている 等)
- 思いやりのある子・進んではたらく子
(・自他の命を尊重する ・相手の立場に立って考える ・自分にできることを考える 等)
- 明るく元気な子
(・心身の健康を保つ ・健康のために生活を整える ・心身の不調に対処できる 等)

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

千代田区子育て・教育ビジョンの示す「子どもの健やかな育ちをまち全体で支援し、一人ひとりの可能性を最大限に伸ばす」という基本理念を踏まえ、以下の基本方針のもとに、学校・家庭・地域が連携し、豊かな関わりの中で児童一人一人が自らの可能性を伸ばす教育を展開する。

ア 次代を担う子どもたちに求められる学びを実現する学校

- ① 予測困難な時代において正解のない問いに向き合い、他者と協働して課題解決できる力を養うため、教科等横断的なカリキュラム・マネジメントを行い、6年間の探究的な学習を通して、「地域を愛し、地域の未来を創造する麴町の子」を育成する。
- ② 探究的な学習の推進に当たり、小笠原村立小笠原小学校との交流を通して多様な地域性や文化、環境問題等について視野を広げ、持続可能な社会の創り手としての資質・能力を育む。
- ③ 社会の一員として自分らしく生きていく力を養うために、社会に参画する意識、勤労観や職業観等を育むキャリア教育を推進する。
- ④ 「ちよだスマートスクール」を推進し、ICTを活用して児童を学びの主体とした学習を展開する。併せて「ちよだリテラシー教育」を推進し、情報を読み解き自己の信念に従って行動する力を育む。
- ⑤ 学期を二期制にして教科等横断的な学習に継続的に取り組み、学びの連続性を確保するとともに、高学年に教科担任制を導入し、質の高い授業を展開する。

イ 豊かな心を育て、多様性を認め合う人を育む学校

- ① 児童が発達段階に応じて人権について理解し、人権感覚を養い、偏見や差別をもたずに他者と協働できるよう、教育活動全体を通じて人権教育を推進する。
- ② 生命の尊さや他者への思いやり、公正・公平などの道徳的価値を理解し、周囲とよりよい関わりをもてるよう、他者との話し合いを通して考えを深める道徳教育を推進する。
- ③ 豊かな情操を育み、自己理解・他者理解を深めるとともに、論理的思考力を育成するため、

第1表の2

一人一台端末も活用して読書活動を推進する。

- ④ 「生徒指導提要」に示された発達支持的生徒指導に重点を置きつつ、情報モラル等の現代的課題を踏まえて規範意識を育むとともに、いじめの未然防止、早期発見・早期対応を図る。

ウ 心身ともに健康で安全に生活する力を育む学校

- ① 児童が運動に親しみ、楽しんで体を動かす習慣を身に付け体力を向上できるよう、体育的活動やコーディネーショントレーニングを推進する(学校2020レガシー③「スポーツ志向」)。
- ② 体育の授業や保健指導、外部講師を活用したがん教育等を通して、ヘルスリテラシーを高める健康教育を推進する。学校給食において食の安全を徹底するとともに、食育の充実を図る。
- ③ 生活安全、交通安全、災害安全の3つの領域から安全教育を推進し、児童が危険を予測し回避する力と、自らの命を守る行動ができる力を育むとともに、校内の安全管理を徹底する。

エ グローバルな視野を身に付け、世界で活躍できる力を育む学校

- ① 発達段階に応じて外国語に親しみ、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うため、ALTを効果的に活用し、英語教育の充実を図る。
- ② 近隣の大使館等と連携して国際交流の充実を図り、異文化を理解し尊重する態度や、豊かな国際感覚を醸成する(学校2020レガシー⑤「豊かな国際感覚」)。
- ③ 日本や千代田区に関する歴史や文化への理解を促進し、我が国の伝統文化や伝統芸能に親しみ、その魅力を発信する活動を推進する(学校2020レガシー④「日本人としての自覚と誇り」)。

オ 一人ひとりの子どもの寄り添い、安全・安心を守る学校

- ① 誰一人取り残さず、基礎となる学力の定着を図るため、達成度調査の結果をもとに個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。また、麹町幼稚園や近隣の保育園と交流し、第1学年におけるスタートカリキュラムを充実させ、就学前教育との円滑な接続を図る。
- ② 児童の特性に応じた指導を行うとともに、保護者や関係諸機関と連携して最適な支援につなげる。特別支援学校のセンター的機能も活用し、インクルーシブ教育を推進する。
- ③ 学校いじめ防止基本方針に基づき、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門人材を活用し、保護者や地域と連携して、いじめ問題の速やかな解決を図る。
- ④ 不登校児童の状況を継続的に把握し、保護者や関係機関と連携して支援するとともに、教室に行きにくい児童が個別学習できるサポートルームを校内に整備し、学びの機会を保障する。

カ 地域とともに子どもを育み、成長を喜ぶ学校

- ① 地域学校協働活動コーディネーターと連携し、地域人材と協働して教育活動のさらなる充実を図る。
- ② 地域の大学、企業や外部講師と連携した特色ある教育活動を推進し、多様な教育課題に応える教育活動を展開する。
- ③ 学校評価を通して、地域・家庭の期待に応え、開かれた学校運営を進める。また、学校運営協議会において児童の現状や学校の課題について協議し、教育課程の改善・充実を図る。
- ④ 学校の取組をホームページ等で迅速に広報し、地域に発信する。

キ 「チーム麹町」で教職員のウェルビーイングを実現する学校

- ① 学習指導や生活指導、学級経営について、本校の課題に応じた指導力を高めるため、校内研修の内容や持ち方を工夫して学び合う組織づくりを行う。
- ② 専科教員が副担任として学年経営に参画し、チームワークが機能する組織をつくる。
- ③ 教職員の心身の健康とライフワークバランスを重視し、教職員同士の心理的安全性が確保され、メリハリのある働き方を実現する。
- ④ ICTやAIを校務に積極的に活用し、業務の効率化とペーパーレス化を推進する。
- ⑤ 「体罰・暴言は指導の敗北」と認識して発達支持的な指導を全教職員で心がけ、体罰や不適切な指導、服務事故を根絶する。